（参考）

産地生産基盤パワーアップ事業
都道府県事業評価参考様式

都道府県名　鹿児島県

Ⅰ　産地パワーアップ計画（収益性向上タイプ）

1　成果目標

（１）生産コスト又は集出荷・加工コストの10%以上の削減

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標	現状 年度	現状 面積	現状 面積 単位	現状 生産量、出荷量又は処理量	現状 生産量、出荷量又は処理量 単位	目標 年度	目標 面積	目標 面積 単位	目標 生産量、出荷量又は処理量	目標 生産量、出荷量又は処理量 単位	実績 年度	実績 面積	実績 面積 単位	実績 生産量、出荷量又は処理量	実績 生産量、出荷量又は処理量 単位	事後評価の検証方法（※定量的な検証ができること。）	達成率（%）	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考
伊佐市農業再生協議会	1	大口山野平原地区	水稲	慣行移植栽培体系に乾田直播栽培及び疎植移植栽培を導入し労働力の削減と年間の作業時間のピーク時の分散を図り経営規模拡大につなげることで、10ａ当たりの生産コスト削減を図る。	生産コストの10%以上の削減	28	117,824 円/10a	49.1512	ha		31	105.965 円/10a	68.045	ha		元	99.322 円/10a	54.067	ha		青色申告書の水稲コストデータ等により検証する。 現状：57,912.06円/49.1512ha 目標：72,103.778円/68.045ha H29実績：63,848.938円/49.061ha H30実績：54,840.553円/53.948ha R元実績：53,700.272円/54.067ha	156.0	伊佐市には大規模飼肉農家が多く、面積拡大が思うように進んでいないが、機械導入により、水稲の生産コストが大幅に削減された。成果目標は昨年度よりさらに大きく達成されている。 今後は産地全体への波及による更なるコスト削減と面積拡大が図られるよう勉強・指導していく。	当産地は、県下で名高い良質米の産地であり、ヒノヒカリを主とした「伊佐米」を安定的に生産しているが、米価の低迷や農業者の高齢化によって、低コスト・省力化が急務の課題となっている。 そこで、本事業により、生産コストの10%以上削減を目標に、直播栽培及び疎植栽培に対応した高性能機械を導入して取り組んだ結果、成果目標に対する令和元年度の実績が上回り、達成率156%となった。 その要因として、慣行栽培から直播栽培及び疎植栽培への移行が確実に進んでいるためと思われる。 なお、栽培面積は、取組主体において面積拡大に努めているものの、農地集約が進まず、微増にとどまっている。今後は、市や農業委員会等関係機関と連携して面積拡大が図られるように支援していく。	

（２）販売額又は所得額の10%以上の増加

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標	現状 年度	現状 面積	現状 面積 単位	現状 生産量又は出荷量	現状 生産量又は出荷量 単位	現状 価格（販売単価）	現状 価格（販売単価） 単位	現状 生産コスト	現状 生産コスト 単位	目標 年度	目標 面積	目標 面積 単位	目標 生産量又は出荷量	目標 生産量又は出荷量 単位	目標 価格（販売単価）	目標 価格（販売単価） 単位	目標 生産コスト	目標 生産コスト 単位	実績 年度	実績	実績 面積	実績 面積 単位	実績 生産量又は出荷量	実績 生産量又は出荷量 単位	実績 価格（販売単価）	実績 価格（販売単価） 単位	実績 生産コスト	実績 生産コスト 単位	地域（県又は国）の価格（販売単価） 事業実施前年度	地域（県又は国）の価格（販売単価） 事業実施前年度 単位	地域（県又は国）の価格（販売単価） 目標年度	地域（県又は国）の価格（販売単価） 目標年度 単位	補正係数	価格補正後の実績	事後評価の検証方法（※定量的な検証ができること。）	達成率（%）	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考
日置市農業再生協議会	2	西部地区	イチゴ	イチゴの産地力の強化 ・生産面積の拡大及び作期の延長等による収量増とさめ細かな管理作業と適期収穫による高品質果実の出荷 ・地域イチゴ担い手育成システムの強化と新規就農者の確保 ・青果出荷分以外の果実を加工原料へ変え、その原料を加工業者等へ供給する体制の構築を図り、６次産業化に取組む	販売額の10%以上の増加	27	販売額 31,523,154 円	0.87	ha	27,344	kg	1,153	円/kg			31	販売額 46,239,572 円	1.17	ha	39,523	kg	1,170	円/kg			元	販売額 71,115,993 円	1.19	ha	53,286	kg	1,334	円/kg			1038	円/kg	1207	円/kg	0.860	61,130,653 円	出荷伝票など販売実績が確認できる書類に基づいて実績の検証をおこなう。	201.2	ハウス附帯設備のリース導入により、栽培面積の拡大と生産量の増加が図られ、高単価で取引されたことから成果目標は達成された。		
日置市農業再生協議会	3	東部地区	イチゴ	イチゴの産地力の強化 ・生産面積の拡大及び作期の延長等による収量増とさめ細かな管理作業と適期収穫による高品質果実の出荷 ・地域イチゴ担い手育成システムの強化と新規就農者の確保 ・青果出荷分以外の果実を加工原料へ変え、その原料を加工業者等へ供給する体制の構築を図り、６次産業化に取組む	販売額の10%以上の増加	27	販売額 115,892,807 円	2.75	ha	99,660	kg	1,163	円/kg			31	販売額 137,620,516 円	3.27	ha	118,338	kg	1,163	円/kg			元	販売額 219,468,813 円	3.4	ha	151,302	kg	1,450	円/kg			1038	円/kg	1207	円/kg	0.860	188,669,959 円	出荷伝票など販売実績が確認できる書類に基づいて実績の検証をおこなう。	335.0	ハウス附帯設備のリース導入により、栽培面積の拡大と生産量の増加が図られ、高単価で取引されたことから成果目標は達成された。		
南九州市農業再生協議会	1	新牧	茶	有機向け機械等の整備、輸出向け荒茶加工施設整備、福茶栽培の拡大に伴う被覆資材の導入等により販売額の増加を図る。	販売額の10%以上の増加	27	219 千円/10a	95.2	ha	263.2	t	794	円/kg			31	287 千円/10a	99.3	ha	347.4	t	820	円/kg			元	660 千円/10a	88.5	ha	525.3	t	1,112	円/kg			911	円/kg	827	円/kg	1.102	727 千円/10a	現状： 219,352千円/95.2ha 実績（R元）： 584,231千円/88.5ha	747.1	有機栽培による福茶生産等に取組み販売額の向上が図られている。	有機栽培による福茶生産等に取組み成果が進み、出荷量や販売単価が目標を大きく上回ったことから、成果目標は達成された。	
南九州市農業再生協議会	2	知覧南部・川辺	茶	有機向け機械等の整備、輸出向け荒茶加工施設整備、福茶等の生産に伴う加工施設の整備等により販売額の増を図る。	販売額の10%以上の増加	27	473 千円/10a	416.3	ha							31	524 千円/10a	434.4	ha							元	424 千円/10a	418.3	ha	1,891.7	t	938	円/kg			911	円/kg	827	円/kg	1.102	467 千円/10a	現状： 1,970,632千円/416.3ha 実績（R元）： 1,774,136千円/418.3ha	-11.8	有機栽培や契約取引の拡大を図りながら販売額向上に努めたが、在庫過多等による茶価格低迷により目標を達成できなかった。 今後、有機栽培に適した改植を行い生産性向上や販売促進の取り組みを支援する。	販売単価が低迷したことから、成果目標は達成されなかった。 価格は、成果目標の達成にむけ、関係機関・団体と連携して生産性向上や販売促進の取り組みを支援する。	
南九州市農業再生協議会	4	頴娃南部地区	にんじん	洗浄選別設備の整備によるにんじんの商品性・販売単価の向上や、原料荷甘しょから青果用にんじんへの品目転換、畑かん利用による発芽揃え対策や土づくり等による生産安定に取り組み、販売額の10%以上の増加を図る。	販売額の10%以上の増加（単位面積当たりの増加）	27	350 千円/10a	27.51	ha	1,135.8	t	84.7	円/kg			31	406 千円/10a	43.11	ha	1,821.9	t	96.0	円/kg			元	343 千円/10a	24.79	ha	956.3	t	88.8	円/kg									令和元年度の販売実績に基づき比較検証する。 現状（H28）：96,175千円/27.51ha 実績（R元）：84,964千円/24.79ha	-12.5	規模の影響による出荷時期の前倒しによる価格低迷や生産者の減少などにより生産額・生産量共に伸びず目標未達成となった。 関係機関と連携し、気候の影響を少しでも緩和できるよう、市場状況等を注視し、最適な集出荷指導を行ったり、中規模な生産者への栽培集積を推進し、早期の目標達成を図る。	先浄選別施設を導入したが、規模の影響による販売単価が低迷し、成果目標は達成されなかった。 今後では、目標達成に向け、関係機関・団体と連携して作型や気象災害対策を含めて産地での栽培技術向上を指導していく。	補正なしの場合は理由 にんじんの単価は全量契約取引により定額であるため、市場価格の補正は行わない
さつま町農業再生協議会	1	さつま町	ぶどう	品種の更新及び早進化や寒害防止により販売額の10%以上を増加させる。	販売額の10%以上の増加	28	1,015,590 円/10a	2.3	ha	27,165	kg	1,047	円/kg			31	1,181,313 円/10a	3	ha	32,020	kg	1,103	円/kg			元	1,783,066 円/10a	2.87	ha	41,370	kg	1,237	円/kg			1,047	円/kg	1,200	円/kg	0.873	1,556,638 円/10a	販売実績と目標値で実証	326.5	異常気象による高齢化の影響を受けにくいとされる優良品種（ウイーンニー・シャインマスカット）に品種転換することにより、農業所得の向上を図り、成果目標は達成された。	全国的に支持が高く、温暖化の影響を受けにくいとされる優良品種（ウイーンニー・シャインマスカット）に品種転換することにより、農業所得の向上を図り、成果目標は達成された。	
曽於市農業再生協議会	2	大隅町	ごぼう	・低収益品目からの品目転換 ・予冷施設の導入	販売額の10%以上の増加	28	481,567 円/10a	2.382	a	208,258	kg	551	円/kg			31	547,856 円/10a	3.710	a	427,899	kg	475	円/kg			元	409,769 円/10a	3.150	a	283,383	kg	455	円/kg			571	円/kg	521	円/kg	1.096	449,107 円/10a	単収及び単價については、売上伝票等で確認し現状値と比較検証	-49.0	9～10月の台風被害及び暖冬等による野菜価格低迷により、平年とは大減収の年となった。計画未達の要因として、①単収安値、②収益の低下が指摘に留まっていることが挙げられる。①は外部要因の影響が大きいが、更なる肥培管理の徹底により青果物のサイズ向上に努めること、②については発芽率の向上、適期肥培管理の徹底に努めるよう指導を行う。	予冷庫を整備したが、気象災害により単収が減少し収穫量が少なくなったことや、暖冬による野菜価格低迷により単価も低く推移したことから、成果目標は達成されなかった。 今後では、目標達成に向け、関係機関・団体と連携して産地での病害災害対策を含めた栽培技術向上を指導していく	
錦江町農業再生協議会	2	錦江町城元	茶	製茶品質及び処理能力向上に伴う施設整備等	販売額の10%以上の増加	28	535 千円/10a	43.0	ha	133,464	kg	230,050	千円			31	590 千円/10a	47.0	ha	143,228	kg	277,309	千円			元	555 千円/10a	43.2	ha	1,010,448	kg	239,569	千円			1,043	円/kg	827	円/kg	1.261	699 千円/10a	現状は直近年（H21～28）の平均生産実績、目標値は令和元年の生産実績で検証する。	298.2	元年度は、前年度より収量・販売額とも増加した。市況の低迷の中、価格補正後の実績で目標を達成した。より一層の品質管理の徹底・向上を目指すよう指導する。	栽培面積は目標に届かなかったものの、出荷量、販売額は増加し、成果目標を達成した。	
徳之島町担い手育成総合支援協議会	1	亀津南部	バレイショ	①機械化一貫体系確立のための機械導入（リース） 一条用型防除機１台 ②畑かん水の積極的な活用 ③栽培技術向上のための研修会の開催等	販売額の10%以上の増加（単位面積当たりの増加）	27	295,174 円/10a	11.8	ha	193,969	kg	179	円/kg			31	325,000 円/10a	12.8	ha	225,550	kg	184	円/kg			元	274,368 円/10a	6.9	ha	129,846	kg	146	円/kg			232	円/kg	175	円/kg	1.326	363,812 円/10a	平成27年度出荷実績と平成31年度出荷実績を評価して検証する。 【出荷実績は、出荷伝票より比較】	230.1	近年の市場単価下落（北海道産の競年在庫や当地域産天候によるスポットの多量出荷等に起因）により地区の栽培面積が減少したほか、令和元年度産は、秋期高温による発芽不良や病害の発生が相次ぎ大幅な反収減となった。目標達成とはなったが、今後も病害虫防除等の適期管理を徹底するほか、単価向上に向けたＰＲを支援したい。	リース導入した防除機の効率的な利用により、適正管理が進み、成果目標は達成された。	
徳之島町担い手育成総合支援協議会	2	徳之島町	さとうきび	省力化機械等の導入により省力化を図るとともに、受託作業を行うことで小規模農家等の労力補充し、適期管理作業の実施による単収向上（販売額増加）に取り組む。	販売額の10%以上の増加	28	99,343 円/10a	1.321	ha	53,581	t	22,286	円/t			31	109,825 円/10a	1.410	ha	63,612	t	21,581	円/t			元	97,208 円/10a	1.115	ha	46,934	t	21,851	円/t									生産実績（原料受入明細）により評価する。 （現状） 単収4.45t/10a × 単価22,286円/t （目標） 単収0.089t/10a × 単価21,581円/t	-20.4	令和元年度は鳥獣被害等により、生産量が低下したことから、目標を達成することができなかったものと考えられる。 力強い農業・農村の実現に向け、適期管理を推進するとともに、基本技術の励行や作系の分散などを徹底し、単収向上を図る必要がある。	令和元年度は鳥獣被害等により、生産量が低下したことから、目標を達成することができなかったものと考えられる。 力強い農業・農村の実現に向け、適期管理を推進するとともに、基本技術の励行や作系の分散などを徹底し、単収向上を図る必要がある。	補正なしの場合は理由 さとうきびの単価は定額のため、市場価格の補正は行わない
徳之島町担い手育成総合支援協議会	3	神嶺	バレイショ	①機械化一貫体系確立のための機械導入（リース） ートラクター１台 　植付機１台 　畦立機１台 ②畑かん水の積極的な活用 ③栽培技術向上のための研修会の開催等	販売額の10%以上の増加（単位面積当たりの増加）	28	285,804 円/10a	2.0	ha	32,079	kg	178	円/kg			31	319,000 円/10a	2.3	ha	39,700	kg	184	円/kg			元	181,817 円/10a	1.85	ha	23,406	kg	144	円/kg			232	円/kg	175	円/kg	1.326	241,089 円/10a	平成28年度出荷実績と平成31年度出荷実績を評価して検証する。 【出荷実績は、出荷伝票より比較】	-134.7	近年の市場単価下落（北海道産の競年在庫や当地域産天候によるスポットの多量出荷等に起因）により地区の栽培面積が減少し、令和元年度産は、秋期高温による発芽不良や病害の発生が相次ぎ大幅な反収減となった。今後も病害虫防除等の適期管理を指導するほか、単価向上に向けたＰＲを支援したい。	機械のリース導入を行ったが、単価低迷により、成果目標は達成されなかった。 今後では、目標達成に向け、関係機関・団体と連携して真夏災害対策を含めた産地での栽培技術向上を支援していく。	
和泊町担い手育成総合支援協議会	1	玉城・大城	バレイショ	①機械化一貫体系確立のための機械導入（リース） 一条用型防除機1台 一ポテトハーベスター1台 ②畑かん水の積極的な活用 ③栽培技術向上のための研修会の開催等	販売額の10%以上の増加	27	263,072 円/10a	45	ha	1,071	kg/10a	246	円/kg			31	290,000 円/10a	45	ha	1,200	kg/10a	242	円/kg			元	236,853 円/10a	51	ha	1,269	kg/10a	187	円/kg			236	円/kg	172	円/kg	1.372	324,962 円/10a	平成27年度出荷実績と令和元年度出荷実績を評価して検証する。【出荷実績は、園芸振興会玉城支部・大城支部の実績】 現状： 118,224,771円/44.94ha 実績（R元）： 119,918,595円/50.63ha 補正後実績（R元）： 164,528,312円/50.63ha	229.8	市場需給等により販売単価が下落した一方、面積、出荷量については増加し産地力維持は図られている。 市場需給等外的要因を排除した結果価格補正後の実績値で目標を達成した。 今後も適期管理の継続を推進する。	リース導入した防除機や収穫機の効率的な利用により、適正管理が進み、成果目標は達成された。	
和泊町担い手育成総合支援協議会	4	谷山	バレイショ	①機械化一貫体系確立のための機械導入（リース） 一ポテトハーベスタ1台 ②畑かん水の積極的な活用 ③栽培技術向上のための研修会の開催等	販売額の10%以上の増加（単位面積当たりの増加）	27	245,012 円/10a	15	ha	1,044	kg/10a	235	円/kg			31	280,000 円/10a	15	ha	1,216	kg/10a	231	円/kg			元	303,065 円/10a	11.2	ha	1,610	kg/10a	188	円/kg			236	円/kg	172	円/kg	1.372	415,805 円/10a	平成27年度出荷実績と平成31年度出荷実績を評価して検証する。 【出荷実績は、園芸振興会和支部・和泊支部実績より比較】 現状： 129,884,887円/4.966a 実績（R元）： 33,912,979円/11.19ha 補正後（R元）： 6,528,607円/11.19ha	488.1	市場需給等により販売単価が下落したことが影響し、販売額減が減少した。 一方、適期管理により反当収量が増加しており、市場需給等外的要因を排除し価格補正後の実績値で目標を達成した。 今後も適期管理の継続を推進する。	リース導入した収穫機の効率的な利用により、適正管理が進み、成果目標は達成された。	

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標	現状										目標										実績										地域(県又は国)の価格(販売単価)				補正係数	価格補正後の実績	事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)	達成率(%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考
						年度		面積	単位	生産量又は出荷量	単位	価格(販売単価)	単位	生産コスト	単位	年度		面積	単位	生産量又は出荷量	単位	価格(販売単価)	単位	生産コスト	単位	年度		面積	単位	生産量又は出荷量	単位	価格(販売単価)	単位	生産コスト	単位	事業実施前年度	単位	目標年度	単位							
知泊町担い手育成総合支援協議会	6	榎折	パレイショ	①機械化一貫体系確立のための機械導入（リース） ー乗用型掘り取り集積機　1台 ②畑かん水の積極的な活用 ③栽培技術向上のための研修会の開催等	販売額の10%以上の増加（単位面積当たりの増加）	27	199,142円/10a	11	ha	891	kg/10a	223	円/kg			31	240,000円/10a	11.3	ha	1,208	kg/10a	203	円/kg			元	214,589円/10a	13.5	ha	1,167	kg/10a	184	円/kg			236	円/kg	172	円/kg	1.372	294,416円/10a	平成27年度出荷実績と平成31年度出荷実績を評価して検証する。 【出荷実績は、園芸振興会根折支部実績より比較】 現状（H27）：22,025,113円/11.06ha 実績（R1）：29,012,398円/13.52ha 補正後（R1）：8,050,101円/13.52ha	233.2	栽培面積は中心となる生産者の産地維持意欲の向上により目標値を上回っている。一方，疫病の発生で収当収量が増減したほか，市場買給等により販売単価が下落した。 市場買給等外的要因を排除し，価格補正後の実績値では目標を達成したことから，今後も適期管理の継続を推進する。	リース導入した収穫機の効率的な利用により，適正管理が進み，成果目標は達成された。	
知名町担い手育成総合支援協議会	3	GS	パレイショ	①機械化一貫体系確立のための機械導入（リース） ートラクター，プラウ　各1台 ー乗用型防除機1台 ②畑かん水の積極的な活用 ③栽培技術向上のための研修会の開催等	販売額の10%以上の増加（単位面積当たりの増加）	27	260,226円/10a	16.0	ha	174,625	kg	239	円/kg			31	297,000円/10a	24.0	ha	357,200	kg	200	円/kg			元	284,079円/10a	15.0	ha	244,892	kg	174	円/kg			266	円/kg	182	円/kg	1.462	415,872円/10a	平成27年度産出荷実績と平成31年度産出荷実績を評価して検証する。 現状：41,688千円／16.0ha 実績：42,555千円／15.0ha （補正後）：62,298千円／15.0ha	423.3	単価下落の影響で栽培面積が減少したが，反収が向上したことなどにより目標を達成した。今後も適期管理を推進する。	防除機のリース導入により，病害が減少し単収が向上した効果も有り，成果目標は達成された。	
知名町担い手育成総合支援協議会	5	アクセル	グラジオラス	①機械化一貫体系確立のための機械導入（リース） ートラクター1台 ープラウ，ロ連，1台 ーパワーハロー1台 ②計画的作業実施と長地の活動化 ③栽培技術向上のための研修会の開催等	販売額の10%以上の増加	27	559,388円/10a	5.84	ha	440,372	本	74	円/本			31	620,000円/10a	8.0	ha	663,600	本	75	円/本			元	557,025円/10a	2.5	ha	217,280	本	65	円/本			76	円/本	74	円/本	1.027	571,044円/10a	平成27年度産出荷実績と平成31年度産出荷実績を評価して検証する（出荷時期：当年11月～翌年6月） 現状：32,668千円／5.8ha 実績：14,148千円／2.5ha （補正後） 14,505千円／2.5ha	19.2	適期管理により反当収量は向上したが，新型コロナウイルス感染症の影響等で単価が下落したため収穫販売額を減少できなかった。今後も適期管理を推進するほか単価向上に向けて産地ＰＲを実施する。	トラクター等のリース導入による土づくり（深耕）を実践したことで，単収は増加したが，新型コロナウイルスの影響のため単価が低下し，成果目標を達成できなかった。 県では，目標達成に向け，関係機関・団体と連携して栽培技術向上（品質向上）や産地ＰＲを支援する。	

都道府県平均達成率		総合所見	
	66%		【県全体】 令和元年度を目標年度としている17計画のうち11計画は目標達成，６計画は目標未達成。 なお，目標未達成となった６計画を策定した４地域協議会に対して，目標達成に向けて，関係機関・団体と連携して指導を行っていく。 （生産コストまたは集出荷・加工コストの10%以上の削減） 目標年度とした水稲１計画は，農業機械のリース導入により生産コストの低減が図られ，計画どおり10%以上削減することができ目標達成となった。 （販売額又は所得額の10%以上の増加） 目標年度とした16計画のうち， ・　野菜７計画，果樹１計画，茶２計画は，集出荷施設等の整備や傾付機等の農業機械のリース導入により販売額が増加し，計画どおり10%以上増加することができ目標達成となった。 ・　野菜３計画，花き１計画，茶１計画，さとうきび１計画は，9～10月の台風や大雨，暖冬等の気象変化が影響した生育不良や単価低迷等により計画どおりの販売額を確保できなかったことが要因となり，目標は未達成となった。

別添様式3

成果目標の達成率が80%未満の地域協議会

【鹿児島県】

市町村名	地域協議会名	整理番号	作物等 区分 （対象作物名）	成果目標	現状値	目標値 （H30）	事業実施後 （目標年度） 実績値	目標 達成 状況	（参考） 都道府県による改善指導の 判断理由
南九州市	南九州市農業再生協議会	2	畑作物・地域特産作物 （茶）	販売額の10%以上の増加 （目標：10%以上の増加）	473千円/10a （H27）	524千円/10a	467千円/10a （価格補正後）	−11.8%	達成状況が−11.8%と現状を下回ったこと、改善策については新品種への転換などの品質向上対策の観点からも検討すべきであるため、南九州市農業再生協議会を指導する必要がある。
南九州市	南九州市農業再生協議会	4	野菜 （露地野菜：にんじん）	販売額の10%以上の増加 （目標：10%以上の増加 （単位面積当たりの増加））	350千円/10a （H27）	406千円/10a	343千円/10a	−12.5%	達成状況が−12.5%と現状を下回ったこと、改善策については気象災害対策を含めた栽培技術向上の観点からも検討すべきであるため、南九州市農業再生協議会を指導する必要がある。
曽於市	曽於市農業再生協議会	2	野菜 （露地野菜：ごぼう）	販売額の10%以上の増加 （目標：10%以上の増加）	481,567円/10a （H28）	547,856円/10a	449,107円/10a （価格補正後）	−49.0%	達成状況が−49.0%と現状を下回ったこと、改善策については気象災害対策を含めた栽培技術向上の観点からも検討すべきであるため、曽於市農業再生協議会を指導する必要がある。
徳之島町	徳之島町担い手育成総合支援協議会	2	畑作物・地域特産作物 （さとうきび）	販売額の10%以上の増加 （目標：10%以上の増加）	99,343円/10a （H28）	109,825円/10a	97,208円/10a	−20.4%	達成状況が−20.4%と現状を下回ったこと、改善策については鳥獣被害対策の観点からも検討すべきであるため、徳之島町担い手育成総合支援協議会を指導する必要がある。
徳之島町	徳之島町担い手育成総合支援協議会	3	畑作物・地域特産作物 （いも類：ばれいしょ）	販売額の10%以上の増加 （目標：10%以上の増加 （単位面積当たりの増加））	285,804円/10a （H28）	319,000円/10a	241,089円/10a （価格補正後）	−134.7%	達成状況が−134.7%と現状を下回ったこと、改善策については気象災害対策を含めた栽培技術向上の観点からも検討すべきであるため、徳之島町担い手育成総合支援協議会を指導する必要がある。
知名町	知名町担い手育成総合支援協議会	5	花き （露地花き：グラジオラス）	販売額の10%以上の増加 （目標：10%以上の増加）	559,388円/10a （H27）	620,000円/10a	571,044円/10a （価格補正後）	19.2%	達成状況が19.2%と低調であったこと、改善策については栽培技術向上の観点からも検討すべきであるため、知名町担い手育成総合支援協議会を指導する必要がある。

（注）1．本表は、要領第16の4により、都道府県が改善措置の指導が必要とした地域協議会のうち、成果目標の達成率が80%に満たなかった地域協議会（要領第17の2関係）について記入する。

2．実績欄は、地域（県又は国を含む）の販売単価による価格補正を行っている場合は価格補正後の実績を記入する。